

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：“The Economist”を読む ILAS Seminar:Reading "The Economist"			担当者所属 職名・氏名	経済研究所 教授 原 千秋		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2026・前期	受講定員 (1回生定員)	9(9)人	配当学年	1回生	対象学生	全学向
曜時限	水5	教室	経済研究所本館1階第二共同研 究室(本部構内)		使用言語	日本語	
キーワード	金融およびファイナンス関連 / 理論経済学関連 / 経済政策関連 / 公共経済および労働経済関連						
【授業の概要・目的】							
<p>将来どのような職業に就くとしても、確かな情報に基づく新聞や雑誌の記事を正しく理解することは重要である。視野を広げるためには、日本語で書かれた記事だけでなく、英語で書かれた記事を理解する能力も必要である。そこで、本セミナーでは、明快な英語で書かれているとの定評がある The Economist の最新号（もしくは1, 2週間前の号）の、主に "Finance & economics" および "Leaders" のセクションに掲載された記事3本を読み、それに基づいて議論する。事前の報告者を定めない（報告者は毎回その場で指定される）ので、受講者全員が、毎回、報告できるようにメモまたはスライドを準備することが求められる。また、単に英語を日本語に訳するだけではなく、記事の背景にある事象や原理も説明できるよう準備することも求められる。場合によっては英語による要約の提出が求められる。</p>							
【到達目標】							
<p>英文記事を早く正しく読む技術を獲得するとともに、背景にある経済現象に関する知識を身につける。さらに、読解した内容を、日本語英語のいずれにおいても噛み砕いて説明できるようになる。</p>							
【授業計画と内容】							
<p>第1回 イン트로ダクション 有用と思われる辞書などを紹介する。担当講師（原）が実際にThe Economistの記事を紹介し、今後の授業（セミナー）の進め方の見本を示す。受講生の希望を聞き、講義でとり上げる記事の内容（の傾向）や進行方法を定める。</p>							
<p>第2回から第13回 The Economistの記事の読解と報告 「授業の概要と内容」で示した方法でThe Economistの記事3本を精読・報告し、その背景を含めて議論する。議論の展開次第では、記事の内容を離れ、次回以降に経済・ファイナンスに関する内容の報告が求められることがある。</p>							
<p>第14回 まとめ これまでの報告を振り返り、英語・経済・ファイナンスにおいて習得すべき知識や分析手法を明らかにする。特に、経済学などを専攻する受講生が次年度以降に専門とする領域を決めるための判断に資することを旨とする。</p>							
<p>第15回 フィードバック</p>							
ILASセミナー：“The Economist”を読む(2)へ続く							

ILASセミナー : "The Economist" を読む(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

平常点により評価する。平常点は報告の準備および内容・討論への参加によって決める。4回以上欠席した受講生は不合格とする。

【教科書】

英文誌 The Economist の記事を教材とするので、各自購読することが望ましい。電子版のみで十分である。購読しない場合は、付属図書館や経済学部図書室で必要箇所をコピーすること。

【参考書等】

(参考書)
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

授業前には指定された記事(毎回3本を予定している)を精読すると同時に周辺事実の理解につとめ、指名された場合に報告できるよう、メモもしくはスライドを用意しておくこと。

【その他(オフィスアワー等)】

2025年度にも同様のILASセミナーを開講したが、どの受講生も毎週約6時間を準備に費やした。

オフィス・アワーについては、KULASISの「オフィスアワー機能」を参照せよ。

【主要授業科目(学部・学科名)】